

比較家族史学会

## 会報 比較家族史 83

事務局 〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1 パレスサイドビル 9F  
(株)毎日学術フォーラム内 比較家族史学会 ☎:03-6267-4550 FAX:03-6267-4555

Email:maf-jscfh@mynavi.jp 郵便振替 00130-4-25222(名義 比較家族史学会)

### 2024年 比較家族史学会 第75回 秋季研究大会のご案内

【日程】2024年11月30日(土)

【会場】東北学院大学土樋キャンパス ホーイ記念館3階 H301

アクセス <https://www.tohoku-gakuin.ac.jp/access/tsuchitoi.html>

【参加費】会員：2000円 非会員：2500円 院生・学生：無料

【申込方法】以下のGoogleフォームからお申込みください。HPからもお申込みできます。

<https://forms.gle/3aX271ZQSkEUMBsB6>

申込締切 2024年11月24日(日)

※対面での開催ですが、資料については事前にダウンロードをお願いします。

資料のアクセス方法については参加申込み者にメールにてお知らせします。

【託児所】以下の託児所は10月30日から予約が可能です。必要な方は直接ご連絡下さい。

のびすく仙台 [https://nobisuku-sendai.jp/n\\_sendai/index.html](https://nobisuku-sendai.jp/n_sendai/index.html)

電話：022-726-6181

要予約、6か月以上の未就学児、9時半から16時半まで

#### 【プログラム】

総合司会 土屋敦(関西大学)

10:00~10:10 会長挨拶 三成美保(追手門学院大学)

10:10~10:15 大会運営についてのお知らせ 政岡伸洋(東北学院大学)

10:15~11:30 自由報告 司会 武井基晃(筑波大学)

10:15~10:40 自由報告① 玉土大悟(中央大学大学院・博士後期課程)

「室町期今出川家における家の断絶と再興」

10:40~11:05 自由報告② 根本みなみ(東北大学東北アジア研究センター・助教)

「近世大名家における子女の縁組相手選定にかかわる意思決定について——萩藩毛利家を事例に」

11:05~11:30 自由報告③ 太田素子(和光大学・名誉教授)

「近世瀬戸内における港町の形成と家族・子ども——近世戸籍にみる民衆生活史」

11:30~12:30 休憩

12:30~ ミニシンポジウム「日本における高学歴移民女性のワークとケアワーク」(※使用言語:日本語) 司会 賽漢卓娜(長崎大学)

12:30~12:35 企画趣旨説明 賽漢卓娜(長崎大学)

12:35~12:55 鄭楊(中国ハルビン師範大学)

「均衡と衝突:中国の高学歴女性のワーク・ケアワーク」

12:55~13:15 松下奈美子(鈴鹿大学)

「1980年代~1990年代の中国人留学生の日本でのキャリアについて」

13:15~13:35 李雯雯(立教大学)

「国籍や性別による在日外国人の家族形成状況の違い」

13:35~13:45 休憩

13:45~ ミニシンポジウム 司会 松下奈美子(鈴鹿大学)

13:45~14:05 賽漢卓娜(長崎大学)

「在日高学歴中国人移民女性のキャリア形成の困難:1960年代~1970年代生まれの世代中心に」

14:05~14:25 孫詩彧(国際日本文化研究センター)

「高学歴子育て女性のキャリア:1980年代~1990年代生まれを中心に」

14:25~14:45 田媛(中国山東師範大学)

「在日1980年代生まれの中国人家族の育児支援利用に関する分析」

14:45~15:05 劉楠(山梨英和大学)

「高学歴移民女性の産後うつのおトエスノグラフィ」

15:05~15:20 休憩

15:20~15:50 討論

司会 賽漢卓娜(長崎大学)・松下奈美子(鈴鹿大学)

コメント 平井晶子(神戸大学)・李善姫(東北大学)

15:50~16:00 閉会挨拶 野辺陽子(副会長・日本女子大学)

**【シンポジウム趣旨説明】**

「高学歴移民女性の移住過程におけるワークとケアワーク」

賽漢卓娜（長崎大学）

近年の日本において、加速する少子高齢化に伴う労働力不足と経済的なグローバル化を背景に、留学生の受入れがさらに重視されるとともに、外国人の就労・定住に関する規制も大きく緩和されている。こうした背景の下で、日本は、高い技能レベルの移民に対しても積極的に受け入れを行ってきた。2012年に導入された高度人材ポイント制度（狭義的専門職移民）は代表的な例である。学歴や職歴、年収や日本語能力、職業に関する資格などの合計ポイントで決められる。しかし、日本は高度人材の獲得は困難である。理由として、賃金の相対的な低さ、昇進の低さなどと並んで、男女の不平等とワークライフバランスなどに加え、家族の生活や子どもの教育問題が指摘される（大石 2018）。

本企画は、日本で居住年数の長い、1960年代から1990年代の高学歴の中国人移民女性を対象として、ワークとケアワークに関連する問題に関し、年齢および地域間の差異に着目して調査している科学研究費プロジェクトの成果を踏まえたシンポジウム企画である。同科研项目※では、日本の大都市圏及び地方社会で、大卒及び大学院卒の既婚有子の移民女性を抽出し、ライフコースの聞き取り調査を進行中である。同調査は、ジェンダー研究と移民研究の視点から設計しており、社会的な自立と稼得役割の遂行というワークと、出産・育児等のケアワークにかかわる経験、母国と日本のジェンダー観念や社会的制限を受けながらの調整、そしてストラテジーに重点をおいている。日本在住の高学歴の中国人移民女性は、労働市場の慣行とジェンダー観念を受け、どのように対峙し、調整し、どのようにワークとケアワークを実施しているか。企画での各報告は、日中の社会背景を踏め、コーホートに応じて展開される。家族に関する多様な学問的立場の研究者の方々との対話を通して、家族・キャリアを捉える視角についての議論を深めたい。

※基盤研究(C)、課題番号：21K01879、研究年度：2021～25年度、代表：賽漢卓娜

**【大会運営委員】** 政岡伸洋（東北学院大学・委員長）、柳谷慶子（東北学院大学東北文化研究所）、堀内香里（日本学術振興会特別研究員 PD）、賽漢卓娜（長崎大学）、李璟媛（岡山大学）、土屋敦（関西大学）、宇野文重（尚絅大学）

**【運営協力】** 金子祥之氏（東北学院大学）

## 委員会報告

### 【庶務委員会】

#### (1) 会員メーリングリストについて

イベント紹介など、皆さんに届けたいことがありましたら、庶務委員までお知らせください（田中 [tanaka057@toyo.jp](mailto:tanaka057@toyo.jp)）。

#### (2) 会員情報の変更

会員情報に変更がある場合は、学会事務局までご連絡ください。所属・住所などの変更のほか、65歳以上の会員で特別会員を希望する場合、10年以上継続して会員で終身会員を希望する場合もご連絡いただきますようお願い申し上げます。

また、会報をはじめ、種々の案内は ML でお送りしています。メールアドレスを変更された場合にも、学会事務局までご連絡ください。

#### (3) 会費納入

会費未納の方には再度、振込用紙を郵送いたします。本学会は、学会費によって維持されています。学会費が未納の会員については、学会費を納入していただきますようお願い申し上げます。

### 【企画委員会】

#### (1) 2025年春季大会の開催について

日程：2025年6月28日（土）・29日（日）

会場：愛媛大学

シンポジウムテーマ：「家族と暴力」

運営委員：高橋基泰（愛媛大学，運営委員長），李環媛（岡山大学），税所真也（東京大学）ほか

#### (2) 比較家族史学会シリーズ『<家族>のかたちを考える』の進捗について

・第1巻『<産みの親>と<育ての親>の比較家族史』については、2025年1月刊行を目途に編集作業を進めている。

・第2巻『家族と病』については、2024年11月刊行を目途に編集作業を進めている。

### 【編集委員会】

現在、『比較家族史研究第39号』を編集中です（2025年3月発行予定）。昨年（2023年）の秋季研究大会でのシンポジウム「ケアとジェンダーでみるライフコースの変容：アジア・ヨーロッパ6社会の事例から」（山根真理会員ほか）を基にした論考を特集として

掲載予定です。その他、投稿論文（2論文を査読中）、書評・文献紹介（8作品）を予定しています。

### 【渉外委員会】

#### (1) 第14回基礎法学総合シンポジウム

2024年7月20日に基礎法学系学会連合と日本学術会議法学委員会が共催して、第14回基礎法学総合シンポジウムがオンライン形式で開催されました。基礎法学系学会連合は日本法社会学会、日本法哲学会、比較法学会、法制史学会、民主主義科学者協会法律部会、比較家族史学会の六団体で構成するもので、比較家族史学会は今回のシンポジウムの企画と司会を担当しました。

シンポジウムの共通テーマは、「婚姻はいかなる意味で、どこまで『契約』なのか——歴史・比較・展望」です。各学会から、以下の報告がなされました。「中世教会法における婚姻と契約」（法制史学会）、「婚姻の契約性をめぐる西欧とイスラムの位相——比較法及び国際私法の観点から」（比較法学会）、「近代における『契約としての婚姻』——法と社会との乖離の観点から」（日本法社会学会）、「婚姻の契約化と婚姻廃止論——婚姻法と親子法の幸せな『離婚』は可能か」（日本法哲学会）、コメント（民主主義科学者協会法律部会）。

シンポジウムの模様は、『法律時報』2025年3月号の小特集に載る予定です。

#### (2) ギースの活動状況

比較家族史学会が今年度より新たに加盟したギース（GEAHSS:人文社会科学系学協会男女共同参画連絡会）では、いくつか動きがありましたのでご報告します。

①この夏2024年8月に、昨年実施した「人文社会科学系研究者の男女共同参画実態調査」（第2回）の結果と「アーリーキャリアWG」から集められた声をあわせ、内閣府、文部科学省、厚生労働省、法務省にむけ人文社会科学系の男女共同参画、次世代養成について5点に絞った要望書を提出しました。またその要望への応答、意見交換のため参議院議員会館にて全議員にポスティングで周知のうえ2024年9月2日（金）に院内集会を開催しました。当要望書と院内集会の議事録をご覧ください。

<https://geahssoffice.wixsite.com/geahss>

②立憲民主党代表選と自民党総裁選に伴い、その候補者全員と各政党に対し14問から成る「人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会アンケート」を実施したのでご報告します。

([https://824c8b1c-571f-457f-a288-600b039832e3.filesusr.com/ugd/5a0fef\\_0f73827ac3f84230a5a8ceadc4b5c322.pdf](https://824c8b1c-571f-457f-a288-600b039832e3.filesusr.com/ugd/5a0fef_0f73827ac3f84230a5a8ceadc4b5c322.pdf))

③2024年2月18日開催の「第7回GEAHSS公開シンポジウム『なぜ日本のジェンダー指数は低いのか』+「若手」・女性のためのテーマ別ディスカッション」の報告・資料共有をいたし

ます。比較家族史学会からは三成美保会長、小玉亮子会員が登壇しました。

[https://5a0feff5-ad16-4b69-b4a6-](https://5a0feff5-ad16-4b69-b4a6-5275d5dee97f.usrfiles.com/ugd/5a0fef_060c4c9c1e8d4afa9d041975ce7cc8ef.pdf)

[5275d5dee97f.usrfiles.com/ugd/5a0fef\\_060c4c9c1e8d4afa9d041975ce7cc8ef.pdf](https://5a0feff5-ad16-4b69-b4a6-5275d5dee97f.usrfiles.com/ugd/5a0fef_060c4c9c1e8d4afa9d041975ce7cc8ef.pdf)

## 理事会議事抄録

2024年6月9日（日）にオンラインで開催された理事会の議事録抄録を掲載します。

### 1. 庶務委員会

会員情報および会計について報告がなされた。

### 2. 編集委員会

(1) 『比較家族史研究』第38号（2024年4月刊行）の刊行（400部）について報告がなされた。

(2) 『比較家族史研究』第39号（2025年3月刊行予定）の編集について進捗状況が報告された。

### 3. 企画委員会

(1) 2024年度秋季研究大会について報告がなされた。

(2) 法律文化社シリーズ書籍の進捗状況について報告がなされた。

### 4. 渉外委員会

(1) 日本学術会議の基礎法学総合シンポジウムの企画の進捗状況が報告された。

(2) EASP（East Asian Social Policy research network）の2024年京都大会について情報提供がなされた。

### 5. HP委員会

英文HPについて報告がなされた。